



休眠預金とPO

龍谷大学政策学部 深尾 昌峰

自己紹介をかねて



深尾 昌峰 (ふかお まさたか)

龍谷大学 副学長 (政策学部 教授)

株式会社 PLUS SOCIAL 代表取締役
ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター

東近江市 参与
GSG国内諮問委員会 委員



連絡先 : fukao@policy.ryukoku.ac.jp

まずはグループワーク

POとは何者か

- (1) 存在意義、役割、機能など他面的に議論
- (2) 今抱えている課題の共有
- (3) POとは○○

40m

グループワーク

共 有

POとしての我々は
チャレンジャー

である



変革

×守る

一緒に ありたい姿を 実現する

POへの期待と果たす役割

- ・想定する”成果”の言語化（質的・量的）：たどり着く場所
- ・助成制度の設計の適切性
 - 成果にたどりつける実行団体がアクセスできる環境づくり
 - 現場と価値や課題が共有できる言葉や説明
- ・自身のある意味での「自信のなさ」を肯定する
- ・Unlearn
 - 価値創造の立場：ステレオタイプな「課題認識」
 - 課題の見立て力（課題の設定）：見えていない課題
 - 課題はつながっている
 - これまでの「常識」を越えていくということ：摩擦

- ・自身のある意味での「自身のなさ」を肯定する
- ・だけど「放置」しない：受援力
 - 「足りなさ」を埋める資源を提供できるか
- ・実行団体の現場からの声や理屈を理解しようとする
 - 新たな知見や方法論：おしつけない
- ・成功事例・失敗事例を提供できる存在
 - 資金を提供するという立ち位置の理解
 - ありたい姿を共有する「同志」としての立ち位置
- ・信頼関係をベースにできているか（**✗監査的立ち位置だけ**）
- ・”一緒に闘ってくれている！”と思ってもらっているか

伴走とはなにか？

- 「問い合わせ」を提示できているか：
- 実行団体の視点から考えてみる必要
 - 実行団体から見てあなたはどんな存在でありたいか
 - なぜ休眠預金制度で伴走支援経費を積算し支出来ているか
 - 伴走支援の成果とは何かをイメージできているか
 - 伴走支援で譲れない一線はどこにあるのか
 - 足りないものを的確に把握できるか
 - 地域の中で実行団体を孤立させない
 - あなたは誰に雇われ、どこを向いて仕事をするか

出口戦略とPO

出口戦略とPO

“出口”とは…

— 本来どういうあり方が社会にとって理想なのか

— 現状のポジション理解・取り組みによるポジション変化

— サプライサイドの理屈から出発している自覚

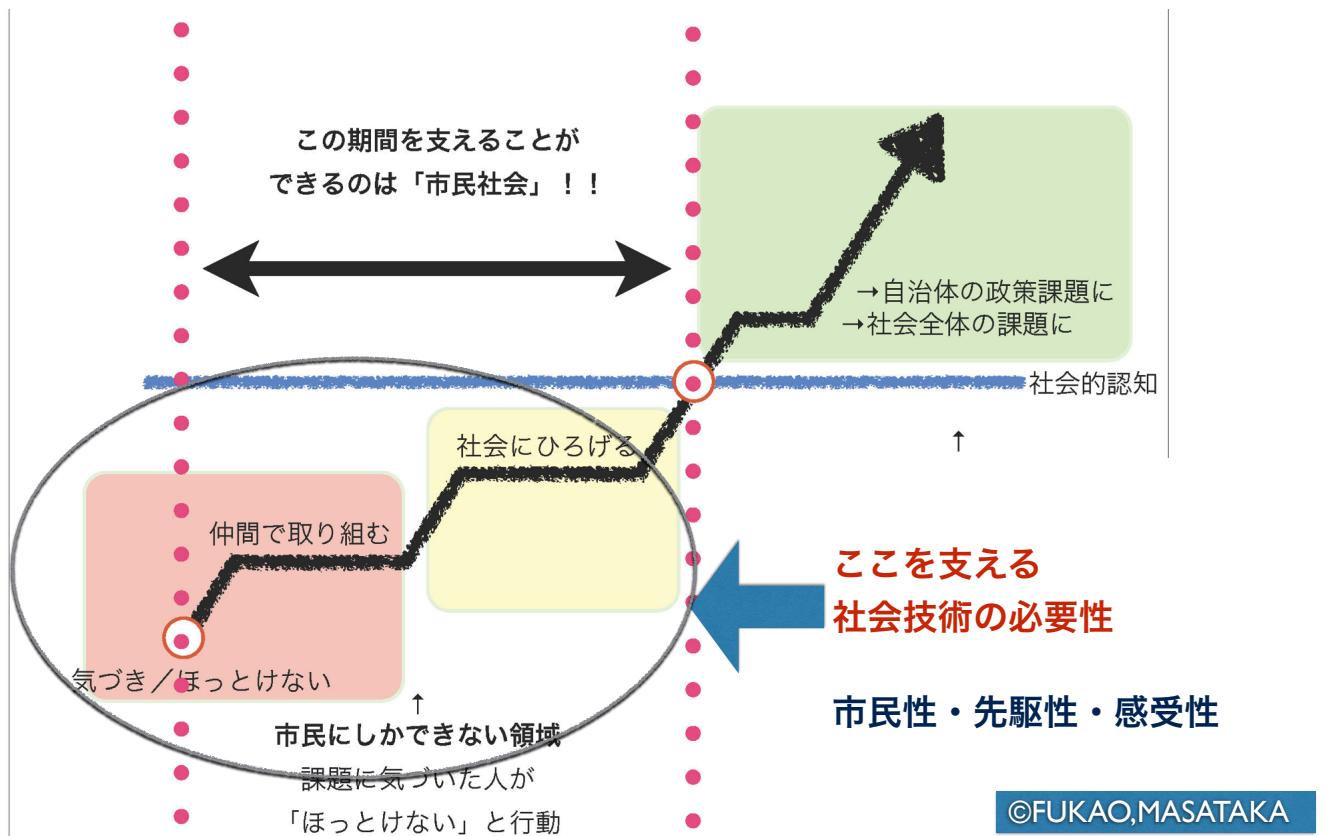
— その上で短期的・中長期的にどこにもっていくのか

— 少し大げさにいうと「民主主義」のあり方

○ 寄付などの資源を獲得して市民的に支えていかなければ

いけない領域の戦略

○ 公的責任や法制化・制度化など税金で支えるべき領域の戦略



市民社会は もっとできる

POの黎明期 必要性を証明

休眠預金の未来とPO

一緒に
ありたい姿を
実現する